

氏名	和田 嘉宥 わだ よしひろ
学位(専攻分野)	博士 (学術)
学位記番号	博乙 第 106 号
学位授与の日付	平成 13 年 11 月 26 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学位論文題目	松江藩御作事所と御大工に関する研究 (主査)
審査委員	教授 日向 進 教授 中村 武 教授 石田潤一郎

### 論文内容の要旨

本論文は、松江藩御作事所を素材として、近世幕藩体制下における藩の作事（建築營繕を担当）組織の実態と組織形態の特色を明らかにし、御作事所に属する御大工の系譜と建築の特色について考察することを目的とするものである。

序章で研究の背景と目的を述べ、全 10 章から成る。第 1 章（「基礎史料について」）で本論の基礎史料である『御作事所御役人帳』『列士録』その他の史料的価値について検討し、これらが松江藩の作事組織の実態を明らかにできる史料であることを確認している。以下、第 2 章から第 6 章までは御作事所に関して、また第 7 章から第 9 章までは御大工に関して論じ、第 10 章では研究を総括している。

第 2 章：「松江藩御作事所の所在と組織形態」

第 3 章：「松江藩御作事所の陣容とその変遷」

第 4 章：「松江藩作事所の作事について」

第 5 章：「松江藩作事所の構成」

第 6 章：「『城普請』について」

約 70 名の大工から成る職能集団である御作事所は、藩の施設を運営、管理する重要な役所である。そのため、御作事所の中で中心的な役割を担う御大工が重用された。御作事所の職掌は、城内の保守管理、松江城下の主要な橋、寺社建築、藩主が使用する御茶屋、さらには幕府の普請手伝いと、多岐にわたるものであった。また御作事所に所属し「城 普請」と呼ばれる約 20 名の職能集団は、御大工を補佐し、城の保守管理の面でも重要な役割を負っていた。

第 7 章：「御大工の推移の特色について」

第 8 章：「『列士録』に見る御大工の系譜」

第 9 章：「竹内有兵衛とその仕事」

御大工をつとめたいいくつかの家系の系譜を明らかにし、御作事所における御大工の位置付けと推移、活動の実態について論じている。『御作事所御役人帳』では判明しなかった享和 2 年（1802）以降について、『列士録』によって御大工の活動を論じている。御大工の中で特に秀でた力量をもつ竹内有兵衛が関わった佐太神社の造営は、それまでの社殿構成を一新し、大社造の基本型に帰すものであったことを述べ、松江藩の建築にみられる地域的特色と御大工の関係について論じている。

## 論文審査の結果の要旨

本論文は、江戸時代における松江藩の作事組織を事例とする、建築生産史研究である。申請者は、長年に亘って出雲を中心とする山陰地方の近世社寺建築調査、近代和風建築調査、また各種の文化財調査などに携わるなかで、松江藩御大工が近世出雲の建築界において果たした役割の大きさに着目した。幕府作事方の組織形態、あるいは各藩の作事組織や活動形態については、ある限られた時期を対象とした先行研究はいくつか見られるが、江戸時代の全期間を通して藩の組織形態や藩の職制に組み入れられた大工（松江藩では「御大工」と称した）の関わった作事に関する研究は蓄積されていない。申請者は上記の課題に対して、藩政時代の主要な期間（寛永15年[1638]～享和2年[1802]）における松江藩の御大工の家系とその推移を伝える史料『御作事所御役人帳』を見出し、また散在する史料を涉猟して、松平氏による治世の全期間を通しての検討を行った。出雲地方における近世建築の形成と展開は松平氏の時代になるものであり、松平氏のもとで建築活動の指導的な立場にあったのが御大工である。松江藩が深く関与した建築遺構の一つの特色として復古的な傾向を示すことの解明には、藩の作事として造営を担当した御大工の技術的系譜の解明が不可欠であることを指摘し、数代に亘る御大工の家系の活動について検証した。本研究は、出雲地方における歴史的環境の形成の解明に寄与するところ大であり、さらなる事例の集積による研究の進展が期待される。

添付された、『御作事所御役人帳』の完全翻刻、及び「松江藩御大工一覧表」は松江藩政史の基本資料として今後の研究に有効である。

本論文は、審査を経て掲載された2編の論文、・和田嘉宥：「松江藩御作事所の構成とその推移—松江藩御作事所と御大工の作事に関する研究 その1—」（『日本建築学会計画系論文集』第504号、pp.211-217、1998年2月）、・和田嘉宥：「松江藩御作事所の構成とその推移—松江藩御作事所と御大工の作事に関する研究 その2—」（『日本建築学会計画系論文集』第544号、pp.239-246、2001年6月）、及び、参考論文「松江藩御大工の研究（1）～（6）」「城下町松江の研究（1）～（10）」と題する一連の研究（『日本建築学会中国支部研究報告集』第15号～22号、1989年～2001年、『日本建築学会大会梗概集』1988年～2000年）、その他7編（同前）をもとに構成されている。